

東京都議会議員（世田谷区選出）

風間ゆたか 都議会レポート



【Profile】1973年東京生まれ。1995年早稲田大学政治経済学部卒業後、大手教育企業に入社。早稲田大学大学院非常勤講師などを経て、2007年～世田谷区議会議員を4期務め、2021年～都議会議員。現在、文教常任委員会議事/都議会立憲民主党副政調会長。

特集

令和4年度

東京都の予算を深掘り！

コロナ禍に立ち向かい、持続可能な都市へ進化を目指す。

¥

財政規模は過去最大の7兆8010億円

提言

早め早めのコロナ対策を実現し、感染症に強い都市にする！



私たちは次々と押し寄せる新型コロナの感染拡大に対し、医療崩壊を阻止するため、医療人材の確保や検査拡充など、早め早めの対策を要望しました。また、介護施設の整備促進と介護人材確保のための各種助成も求めました。その結果、都は補正予算を組み、新型コロナの相談体制強化や検査費用の無償化などを実施。新年度予算案には、高齢者施設での新型コロナ対策費が計上されました。

提言

学校管理職の多忙化を解消し、子どもと向き合う時間の確保を



学校管理職の多忙化が教育現場の疲弊を招いていることから、以下の提言を行いました。

- ・業務が集中する副校長を補佐する人材の拡充
- ・産休・育休・休職代替教員の任用制度の効率化

都は新年度予算案で、副校長補佐職配置の予算拡充。代替教員に関するシステム予算が計上されました。

提言

スクールカウンセラーを増員し、細やかな子どもたちの心のケアを

コロナ禍でスクールカウンセラー等への相談ニーズは増加しています。私たちは児童生徒が抱える様々な課題に対応するために、スクールカウンセラー等の配置拡充を求め、都は新年度予算案で増額計上しています。

提言

ボランティアやNPOが活躍できる共生社会の実現を

社会貢献を旨とするNPO法人や、ボランティアが生き生きと活躍できる社会は、誰もが暮らしやすい共生社会の実現に不可欠です。しかし、コロナ禍で事業を中断しているNPO法人は少なくありません。また、潜在的ボランティアを活動につなげるシステムも不十分でした。そこで、中高生などのボランティア希望者とNPO法人とのマッチングなどをサポートし、共生社会の実現を目指すべきだと提言しました。都の新年度予算案には、「東京ボランティアレガシーネットワーク」(※3)の運用を含むボランティア参加促進予算が組まれました。

※3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに創設された、ボランティアのための情報・交流サイト▶<https://www.tokyo-vln.jp/>



提言

時代のニーズに応じた経済産業政策で中小企業・地域産業を活性化させる！

新時代の経済産業政策として、フードテック（最先端技術を駆使した食関連事業）や次世代モビリティ、脱炭素化ベンチャー支援などを提言。都はインパクト投資(※1)ファンドの創設や中小企業のゼロエミッション(※2)支援などの新設事業を含めた予算案を策定しました！

※1 社会的課題の解決につながる事業への投資
※2 環境を汚染する廃棄物をゼロに近づけること

